

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
3【そなえる】	⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】 東日本大震災の様子と被害状況について理解する。 ⑯【自然災害のメカニズム】火山噴火のメカニズムについて学ぶ。 ⑰【身を守り、生き抜くための技能】【自分と地域社会】災害時に自分の命を守るための技能や地域との協力について学ぶ。	・総合的な学習の時間 ・教科(社会・理科・国語) 特別活動・学校行事

【題材】体験を通して学ぶ～東日本大震災で大きな被害を受けた地域の子を実際に見たり、地域の方々と触れ合う中で聞いたりする体験や県総合防災訓練に参加して避難をするなどの活動を通して、児童一人ひとりがもった思いや気づきをもとに、これから自分たちに出来ること、どのような行動を取っていくかを考える。

【対象】 被災地見学学習：3～6年（22名） 宮古市田老地区（H26.7.4）
 県総合防災訓練への参加：全校児童（35名）（H26.8.30）

【実践の概要・詳細】

I 被災地見学[7月4日]

① 被災地見学に向けての課題作り

・7月4日に実施する宮古市田老地区への見学に向けて、復興教育副読本や家の人からの聞き取り調査をもとに学習課題を作成した。

② 被災地見学①

・世界に誇る「万里の長城」とも言われた防潮堤から、宮古市観光協会震災ガイドの佐々木さんから、震災前の田老地区の様子や震災時の様子の説明を受ける。バスに乗り、震災遺構となった「田老観光ホテル」や「高台移転」の予定地などを見学。

③ 被災地見学②

・田老分庁舎に移動、田老観光ホテルで撮影されたDVDや津波の様子を撮影したDVDを視聴する。学習課題をもとに質問をする。

④ 被災地見学③

・グリンピア三陸内にある仮設住宅を見たり、仮設商店街「たろちゃんハウス」で買い物や商店の方々と交流



4年男児 （被災見学からのまとめから）

「万里の長城」と言われた世界で1番大きな防潮堤が津波に軽々こされてしまいました。佐々木さんのお話から、津波が来ても防潮堤が守ってくれると思っていて逃げなかった人がいて被害が広がったそうです。(中略) 仮設商店街の人達は、復興に向けた商品や宮古のお土産を売っていて、とても優しくしてくれました。(中略) ぼくの課題の、復興がどのように進んでいるのか佐々木さんに聞いたら、復興しているように思われているけれど、実はあまり進んでいないそうです。大工が少ないので、家や道路の工事が出来ないそうです。今、一番ボランティアに来てほしいそうです。このことから、ぼくたちに出来ることは、募金活動や時間があるときにボランティアなどに参加して、復興を手伝って、被災地をもとの市町村に戻せるよう協力することだと思います。



II 県総合防災訓練への参加 (8月30日)

岩手山の噴火を想定した県の総合防災訓練に参加し、災害時に自分の命を守るために何をしたらよいかを、地域の方々と共に学ぶことができました。本校は、ハザードマップに岩手山の水蒸気爆発が起こったとき、土石流被害が想定される場所にあることから、今までも安全教育や総合的な学習の時間などでも火山噴火については学んできているが、実際の避難などの活動は初めてであった。

- ① 岩手山噴火により土石流被害が予想され避難勧告が出され教育委員会より避難するよう指示を受け、西山構造改善センターへ、バスで避難
- ② 避難者名簿作成訓練・避難者の健康相談訓練
児童は健康状況や家族についての聞き取り調査を受けた。自分の家の住所が言えない児童があることに気づいた。今後指導の必要を感じた。
- ③ 学校・家庭・地域連携防災学習
盛岡地方気象台の方を講師に、地域の方々と一緒に火山噴火のメカニズムや避難時に気をつけることなどを学習した。
- ④ 煙体験
- ⑤ 避難者引き渡し訓練
児童の保護者への引き渡し訓練を実施。児童の引き渡しについては、原則保護者への引き渡しとしたが、同居の祖父母、兄姉までを対象とした。訓練に先立ち、緊急時引き渡しカードを作成し、今後使用できる様に整備することが出来た。保護者が参加出来ない場合は、学校で保護するということについても確認できた。

6年女児 県総合防災訓練に参加しての感想

今まで、岩手山や噴火がなぜ起こるかなどに付いて学習してきました。今回、実際に避難をしたり、気象台の方からお話を聞いたりしてとても参考になりました。何かあったとき、そのとき慌てることなく、自分たちで自分の命を守っていけるように、今日の学習を活かしていけるようにしたいと思います。

まとめ

- ・まとめの活動として、被災地見学で見えたこと、聞いてきたことを元に、1・2年生に発信するため、自分の思いや気づきを各自の方法でまとめた。まとめ方として、新聞・リーフレット・パワーポイント・絵本などにまとめた。
- ・阪神淡路の震災と今回の東日本大震災のどちらも経験した保護者の方から、お話を聞くと共に、自分たちで何をすべきか、何が出来るかをワークショップ形式で話し合い、今年度の学習のまとめとする。



保護者の感想から

被災地に行き、被害の様子や復興の様子を子供達にも見せたいと思っていましたが、今回の被災地見学で、子供達は多くのことを学んできたようです。家に帰ってきて、一生懸命話をしてくれました。親子一緒に行って学ぶ機会があっても良いと思いました。